

KSK 湘南ふくしネットワーク オンブズマン(新聞) 広報60号

編集責任者: NPO 法人 湘南ふくしネットワークオンブズマン 相川 裕
 事務所: 〒253-0043 神奈川県茅ヶ崎市元町5-22 永井ビル3階
 電話・FAX: 0467-85-6660 直通電話 090-4937-4904 定価 30 円
 ホームページ: <http://www.npo-snet.com> eメール: info@npo-snet.com



第20回 定期総会のご報告

特定非営利活動法人湘南ふくしネットワークオンブズマンでは、2020年度第20回定期総会を、新型コロナウイルスの感染拡大緊急事態宣言を受け、書面表決総会といたしました。

5月15日(土)10時から事務所に於いて、理事長と議事録署名人による開票が行われ、全ての議案が賛成票となり可決いたしました。

また、理事改選の年でもあり、全ての理事監事が再選されました。理事長を決める臨時理事会も書面表決による理事会となり、全会一致で理事長を相川裕さんに決定いたしました。

開票の様子はオンライン配信され、ネット越しに立ち会う事ができました。



理事・監事名簿(敬称略)		
役職	氏名(住所) [各50音順]	備考
理事長	相川 裕 (横浜市)	Sネット
副理事長	佐川 美智子 (茅ヶ崎市)	Sネット
副理事長	三谷 智百合 (藤沢市)	Sネット
理事	朝倉 新 (鎌倉市)	医師
理事	上杉 桂子 (茅ヶ崎市)	Sネット
理事	江崎 康子 (藤沢市)	Sネット
理事	大石 剛一郎 (川崎市)	Sネット
理事	小野田 智司 (藤沢市)	Sネット
理事	小野田 潤 (茅ヶ崎市)	地域
理事	高崎 義裕 (茅ヶ崎市)	Sネット
理事	高橋 健一 (茅ヶ崎市)	地域
理事	高山 直樹 (藤沢市)	Sネット
理事	角田 郁夫 (鎌倉市)	Sネット
理事	藤本 直也 (鎌倉市)	Sネット
理事	増藤 純 (茅ヶ崎市)	地域
監事	山下 和男 (横須賀市)	Sネット

「法人成年後見担当者養成研修」延期のお知らせ

前号(広報59号)にてお知らせした6月14日開催予定だった「法人後見担当者養成研修」は、コロナ禍により会場が閉鎖になったため、開催できませんでした。引き続き開催を企画しており、次号でお知らせできると思いますので、お待ちください。



コロナ禍の中での活動について(ご報告)

中国の武漢から始まった新型コロナウイルス感染症が日本の中でも広がり、神奈川県では多数の感染者がでています。2月27日から学校が臨時休校になり、3月13日には新型コロナウイルス対策特別措置法が成立し、4月7日には神奈川県を含む7都道府県に対する緊急事態宣言が出されました。ゴールデンウィーク期間は「ステイホーム」となり、5月25日に緊急事態が解除になるまで多くが休業しました。

当法人においても、3月、4月、5月と、人が集まったの会議を取りやめました。郵送による文書での理事会、総会、日常のやり取りには電子メールを使っていましたが、一方方向のやり取りになり、コミュニケーションの不全感をぬぐえませんでした。

そこで、ITに強いメンバーが、オンラインで会議ができるようにとSkypeの開設をして、各々のパソコン設定についてもITに弱い人たちには電話でサポートしていただきました。しかし、オンライン会議に必要なマイクやカメラの付いていないパソコンもあり、そうした機材が品薄状態で手に入らなかったり、人との接触を極力避けていた時期でしたので買い出しに行けなかったり、お助けマンを家に呼び込むことも出来ず、全員がオンラインで会議ができる状態にはなりませんでした。

今まで会議は事務所で行っていましたが、事務所の広さから3密を避けると定員は10人程度となり、現在は、10人以下の会議は事務所、それ以上の人数の会議は事務所組とオンライン組とのハイブリッド会議にしています。顔を合わせて同時に声を聴く事ができるようになって、不全感は薄れました。

今後の新しい日常には欠かせないツールとなりましたが、顔を合わせての会議との違いを感じています。



**今号は、当法人で行っている事業がこのコロナ禍で、
どのような状況だったかをご報告いたします。**

法人後見から

S ネットでは法人後見を現在2件受任しています。

グループホームより訪問を控えて欲しいと言われた方は3月から訪問中止になりました。

その間、ご本人やグループホーム職員には電話で体調や近況を確認しました。

緊急事態宣言解除後は、訪問者は事前に体温確認しマスクを着用、手洗いをおこなった上で40分程度の短時間でご本人、グループホーム職員、ご家族と面会しました。グループホームで預かっている書類等は郵送していただきました。

訪問可能の方に対しては、体温確認・手の消毒・マスク対応で従来通り月3回訪問し、グループホーム職員も含めて、3密を避ける形で対応しました。

事務所でおこなう財産管理事務については人が集まらない時間に、事務所の机やドアノブなどの消毒をおこない、換気に気を付けながら続けました。



情報共有や支援の確認などをおこなう法人後見会議は3月から中止となり、必要事項はメールで相談しました。6月からはSkypeでの参加者もいて、3密を避けながら再開しました。



オンブズマンの訪問活動が中止に

私たちオンブズマンは、施設を訪問して利用者の方々に会って、お話をするなどコミュニケーションを取って、想いを聴き、その想いを施設に伝え、ご本人の想いが実現するよう働きかけるという活動をしています。また、入って行ったその空間の中で「権利を守る」という観点から、感じ取ったものを大切に考えたりしています。

それが、このウイルスのために、施設訪問ができなくなってしまいました。

2月27日に契約法人である翔の会の本部から、「施設は開いているが、感染を防ぐためにボランティアなど外部者立ち入り禁止にするので、当分の間オンブズマンも受け入れられない」という連絡がありました。特に入所施設では家族の面会も禁止にするという事でした。

利用者の方々が楽しみにしている外出や、音楽セラピー、動物セラピー、絵画、ダンスなど専門家やボランティアの力を借りての活動がすべて中止になり、職員だけで対応することになり私たちは外から心配をして見守るだけになりました。

(マスクプロジェクト)

通所施設では毎日検温して平熱である事とマスク着用が条件になっていましたが、3月半ば頃からマスクがお店から消え買えなくなり、行ったけれどもマスクが無いために帰宅するという事が起きているということが分かり、裁縫を得意とするオンブズマンから「布マスクなら作れる。個人的に寄付するのではなく、オンブズマンとして助けたい」という声があり、見守りだけで「何かをしないではいけない」心境だったこともあり、布マスクを作って届ける活動を始めました。直接施設に持って行けないので、お店を開いている「café グランマ(就労支援事業所)」に届けると翔の会のメール便に乗せて届けて頂けるようにルートを確認し、翔の会本部に希望を聞いて、必要な施設に必要な枚数をお届けしました。

途中で布やゴムひもなど材料不足になりましたが、地域の方々が寄付をしてくださり、地域とつながるといふ別の意義も芽生えました。

5月中旬に店頭でマスクが並ぶようになり終了しました。



(お手紙作戦・・・いかがお過ごしですか?)



5月には、メール上で行ったオンブズマン会議で「利用者の皆さんや職員の方達がこの大変な中でどんな風になっているのか知りたい」という想いを語り合い、其々が担当の施設に顔写真入りで応援のメッセージを込めた手紙を送ることにしました。そして施設長やオンブズマン協力員から様子を知らせるお返事が届きました。24時間相談携帯電話に「オンブズマンは何時になったら来てくれるの。顔を見ながら話したい」という電話も入ってきました。

5月に事務所に集まったのオンブズマン会議では、これ以上訪問できない日が続くのであれば、タブレット端末などIT機材を使っての面談も考えて行こうという話になりました。

緊急事態宣言が解除され、6月から、「訪問前10日間平熱である事、マスクを着用する事、滞在時間は1時間、場所を一ヶ所に限定、ソーシャルディスタンスを取る」という条件で、オンブズマン訪問は再開されました。

お話をすることで元気をもたらしているのは実はオンブズマンの方なのではないかと認識させられた「オンブズマン訪問中止」でした。



成年後見支援センター

緊急事態宣言中も、成年後見支援センターでは市民の皆様への相談窓口として、開所していました。相談をおこなう机にビニールで仕切りを作り、体温計と消毒薬とマスクを用意して、相談員も勤務前に体温を測り、3密に気を付けながら期限のある親族後見人の報告等の相談を受けました。

緊急事態宣言解除後も継続して同様の対応をおこなっています。



(次回 WISH!26 号に詳細を掲載予定)

お友達プロジェクト

この活動は、2019年度より、津久井やまゆり園利用者らにむけて実施されている「意思決定支援」の取り組みに資する目的で、同園利用者に対し、家族や職員以外の人間関係をつくるために、行っているものです。

現在、学生12名、一般2名の計14名の「お友達」と、利用者14名で行っているプロジェクトですが、今年2月27日を最後に、コロナウイルス感染防止のため、園への訪問ができなくなりました。6月19日より、利用者ご家族の訪問は再開されましたが、その他の訪問開始はまだ未定となっています。



2月27日までは、園への訪問を中心に活動を行ってきましたが、3月からは、「お友達」による、手紙やビデオレター、またスマホを使ったビデオ電話など、リモートによる交流に切り替えた活動を行っています。

言葉のない利用者も、学生たちがスマホ画面で様々なアクションを見せてくれると、思わずにっこり。学生たちもそんな笑顔に魅せられて、「次は利用者さんの好きな♪歌を歌おう!」と、色々なアイデアを出して、リモート交流を楽しんでいます。

エンパワサロン (障がいのある方とSネットスタッフによる茶話会)

2月15日(4名参加)を最後に中止となっていたエンパワサロンですが、感染防止対策を取りつつ、7月18日に再開しています。当日は2名の方が参加されました。



コロナの感染拡大で、これまでこのサロンに参加されていた方々がどのような状況なのか心配だったのですが、この日はコロナ禍での話題を中心に、様々なお話をお聞きすることができました。やっぱりお茶やお菓子のある「居場所」ってホッとできますね!これからも、感染状況を見据えながら、このサロンを継続していきたいと考えています。

賛助会員 入会のお願い

私たちは、ノーマライゼーション社会の実現を目指し、権利擁護活動を行っています。賛助会員としてご入会いただき、私たちの活動をご支援くださいますようお願い申し上げます。

- ◇賛助会員 ・個人 年額 ー□ 1,000円 (ー□以上)
- ・法人 年額 ー□ 5,000円 (ー□以上)

◇ご入会の方法: 郵便為替書により下記口座へ会費をお振込みください

郵便振替口座番号: 00210-9-75496

口座名義人: NPO 法人 S ネットオンブズマン

